

リビア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在リビア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

日本語教育の実施は確認されていない。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-3制。

小学校6年間、中学校3年間、高等学校3年間。大学（大学院）4～6年間。

義務教育は、小学校及び中学校の9年間。

言語事情

アラビア語が公用語。英語も一部で通じる。旧宗主国はイタリアだが、イタリア語やフランス語の普及は限定的。

外国語教育

リビアにおいて、現在第一外国語として主に英語が広く学ばれており、公立学校制度では初等教育の 3 年生（8 歳頃）から英語が必修科目となる。1980 年代半ばから 1990 年代の大半にかけて、当時のカダフィ政権は英語教育を政治的理由により禁止したが、1990 年代後半に英語教育を段階的に導入した。英語教育は大学・高等学校から始まり、その後中学校、そして 2010 年前後の最新カリキュラム改革で小学校にも導入された。これにより、特に英語教育禁止期間中に教育を受けた世代とそれ以降の世代において、英語能力における世代間格差が生じている。

なお、フランス語も一部の私立学校では必修科目として一般的に教えられている。

日本語教育とは別領域ながら、日本式教育に対する関心が、一部、当地のインターナショナルスクールからよせられた経験がある。

外国語の中での日本語の人気

若者だけでなく様々な世代が日本のアニメや漫画に親しんできている背景から、日本語に関する関心は高く、大使館に対して日本語の勉強について照会があることもある。また、「おはよう」、「こんにちは」、「ありがとう」といった日本語の挨拶を当館員に対して用いるリビア人もいる。なお、当地には、空手、柔道、合気道の各協会があり、数字や技名等は日本語を用いており、アニメや漫画以外に、日本の武道や文化を親しむリビア人の間で日本語の関心は高いと思われる。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。

なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

E メール：kuniketsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）